

令和5年度 第2回鶴岡市総合教育会議 会議録

I 会議結果

- 日時 令和5年11月27日(月)午後3時～4時45分
- 場所 鶴岡市役所 本所3階 庁議室
- 出席構成員
- | | |
|----------|-------|
| 市長 | 皆川 治 |
| 教育委員会教育長 | 布川 敦 |
| 教育委員会委員 | 百瀬 克浩 |
| 教育委員会委員 | 清野 康子 |
| 教育委員会委員 | 中村 公俊 |
| 教育委員会委員 | 齋藤 美緒 |
- 出席関係者
- | | |
|---------|--------|
| 副市長 | 阿部 真一 |
| 総務部長 | 森屋 健一 |
| 企画部長 | 上野 修 |
| 藤島庁舎支所長 | 成田 讓 |
| 都市計画課長 | 五十嵐 泰彦 |
- 傍聴人 11人
- 事務局
- | | | |
|-----|-----------|--------|
| ・進行 | 教育部長 | 永壽 祥司 |
| ・説明 | 管理課長 | 清野 健 |
| | 学校教育課長 | 今野 新一 |
| | 図書館長 | 五十嵐 恭子 |
| | 学校教育課指導主幹 | 渡邊 智 |
| ・庶務 | 管理課庶務係長 | 長瀬 陽彦 |

II 会議次第

- 1 開会
- 2 挨拶 市長、教育長
- 3 協議
 - (1) 令和6年度に向けた教育委員会の重点施策について
 - ①小中一貫教育の推進について 資料No.1-1～3、参考配布1
 - ②新図書館の整備に向けて 資料No.2、参考配布2-1～3
 - (2) その他
- 4 閉会

II 次第3 協議 会議録

(教育部長) 協議に先立ち進め方を説明する。本日の協議題は令和6年度に向けた教育委員会の重点施策となっているが、具体的には、藤島地域における小中一貫教育また新図書館整備の2つに分け、最初に事務局が説明した後に意見交換を行いたい。1つのテーマについて概ね40分程度、全体で80分から90分程度を想定している。それでは次第に従い、小中一貫教育について事務局が説明を申し上げる。

(管理課長) 資料No.1-1、参考配布1説明

(学校教育課長) 資料No.1-2~3説明

(教育部長) 概要説明は以上である。続いて意見交換に入る。最初に教育委員会側から伺い、その後、市長から伺いたい。それでは教育長から願います。

(教育長) 鶴岡型小中一貫教育を令和7年度から推進することと連動し、藤島地域では一步先んじて、老朽化している藤島中学校改築の推進と地域の教育環境の改善に向けて話合いの場を設けていただいた。7回にわたる藤島地域教育振興会議からの提言を受け、藤島地域振興懇談会において提言を了承いただいたこと感謝申し上げます。そのうえで提言をさらに実現していくために、3点申し上げます。

1点目は、藤島地域教育振興会議、藤島地域振興懇談会の要望を受けて、小中学校一体型の小中一貫校、義務教育学校を基本とした学校整備について、藤島地域住民に焦点を絞り、再度、丁寧に説明し合意形成ができるよう努めていきたい。

2点目は、学校改築は、あくまでそこで生活する児童生徒が安心安全で、学びやすい活動しやすい校舎であることが第一義であることを確認し、地域との交流や部活動の地域移行に活用できる多目的な校舎整備が望まれると考える。地域から多くの要望が寄せられているが、どこまで実現可能かは今後検討しなければならない。

3点目は、本市では以前より、各校で特色ある学校経営の創造をお願いしている。今回の件も、藤島らしさがより色濃く出せる藤島学の創造と、児童生徒が登校したくなる、そして、学校にいる甲斐のある生き生きとした学校づくりができる校舎建築と小中一貫教育システムの構築を進めていきたい。何よりも、小学校と中学校の児童生徒と教職員が、より仲良く生活し学んでいくことを大事にしながら、今後進めていきたいのでご理解とご協力をお願いしたい。

(教育部長) 次に、百瀬委員から願います。

(百瀬委員) 藤島地域の小中一貫校整備について、藤島地域教育振興会議を設置し、令和4年から5年の2か年かけて、少子化の進行による学校の小規模化や学校再編整備の必要性などの将来的な地域課題を見据え、今後の地域の教育環境、教育振興のあり方について、じっくり

と丁寧に検討を進めてきたことは、地域の合意形成を推し進めることはもとより、衰退が危惧されている地域コミュニティの活性化を図るうえでも、非常に効果的な進め方だったと考える。このような検討を経て、小中一貫校、義務教育学校の整備を基本とした検討をしていくという提言が地域からなされたことは、小中一貫校整備への大きな期待と地域教育の将来を託すということであり、その期待や思いに応えられる学校づくりを進めていかなければならないと考える。今回、小中一貫校整備を具現化していくための小中一貫校のイメージ案が資料により提示されているが、4つのつながりを柱に、要点を分かりやすくコンパクトにまとめている。小中学校の垣根を外し、長期的なビジョンで進めようとしているイメージを捉えやすい構成になっている。大変よくまとめられている内容だが、思うところをお話したい。

1つ目は、4つのつながりとその取組み例と下段の期待される成果との関係性があると、さらに教育効果のイメージを持ちやすいと思う。期待される成果には、単独の取組みだけでなく、複数の取組みにより生み出される成果もある。それを図示化していくには、例えば、期待される成果を、上段のつながり①③と下段のつながり②④の間に配置し、それぞれの枠と線で結ぶことで取組みによる成果がイメージしやすくなるのではないかと。

2つ目は、つながり②の教育課程の内容に「小学校と中学校の先生が同じ取組みをします」と記載されているが、「同じ取組み」という表現は誤解を招くことが心配されるので、内容としては、相互乗入れをしたり系統性を持たせたり、連携したりすることをイメージしていると思うので、そのようなイメージができる表現にした方が、より伝わりやすいと感じる。

3つ目は、期待される成果の最初の「一人ひとりの個性や能力が伸びます」という項目だが、小中一貫教育によって、現状より期待できる成果が示されるべきと考えるので、義務教育9年間を通して、継続的で一貫性のある教育を行うことによって、これまでより、児童生徒一人ひとりの個性を伸ばし、未来を生き抜く力を育成していけるような内容に表現を工夫してはどうか。同じく成果の最後の「地域に開かれた魅力ある学校になります」という項目は、同じように現在の教育でも示すことができる成果と見受けられる。つながり④の取組みで期待される成果になっていくので、コミュニティスクールの仕組みを生かして、義務教育9年間の子どもの学びと成長に継続的に関わり続けることが可能となるような内容を表す表現にすると、よりつながりが見えると思う。

今後、小中一貫校の配置に向け検討を進めていくうえで、広く地域の理解を進めていく手立てを検討していくと思うが、先進自治体等の例を参考としながら進めていき、理解が広がるようにしてもらいたい。例えば新潟県三条市では、平成25年から市内全小中学校で小中一貫教育を始めたが、PR用の動画を作成し、それをホームページ上で視聴できる取組みをしている。市長と教育長、案内役が説明し、分かりやすく小中一貫教育と小中一貫校の魅力をPRしていた。この様な取組みも参考としながら、今後の各学校区の検討組織における地域の合意形成に向けた有効な手立てを検討していただきたい。藤島地域の小中一貫校には、鶴岡型小中一貫教育のフロントランナーとなる学校づくりを期待する。

(教育部長) 次に、清野委員から願います。

(清野委員) 前回の第1回総合教育会議では「選ばれる」ことを意識したと思う。今回、具体的にイメージを進めていくにあたって選ばれることを意識することが重要である。藤島地域教育振興会議の最終報告書の中で、子どもの減少が不安視されているので、その点からも選ばれるということを忘れてはいけないと考える。最終報告書の中で、子どもの減少と獅子踊りの継承等が懸念されていることが不安とあり、また別に、地域の発展や最先端の教育環境の整備を期待しているとの意見もあった。学校のイメージを早く出してほしいとのことだったが、今回の資料で示されているイメージではインパクトに欠ける気がする。選ばれるという視点でインパクトに欠けるのではないか。例えば、つくば市みどりの学園義務教育学校という小中一貫校がある。首都圏からの移住者が後を絶たないとのことで、人気の秘密は、ICT教育、英語教育、プログラミング教育、問題解決能力の教育など、様々な先進的教育に取り組んでいる。藤島では最先端教育の整備が期待されていることから、資料のイメージ図の中にはないが保護者はこのようなことを求めているのではないだろうか。先進的な教育の例がイメージの中にあってもよいと思う。獅子踊りの継承であれば、仮称だが藤島学でカバーできるのではないかと思う。

つながり①で目指す子ども像が同じになると記載されているが、取り組み例で9年間を通し最終的にどのような子どもを育てたいのかが伝わってこないで、どのような子どもを育てたいのか示してほしい。今後、ソサイエティ 5.0 という社会で中心となる子ども達を育てていくので、その時代を生きるスキルを身に付けていくことも示していくべきではないだろうか。

施設整備として学校をどのような建物にしていきたいのかだが、具体的には、体育館の他に軽運動が可能な獅子踊りの練習ができる施設で、地域住民もコミュニティ施設として使えるような施設であったら良いと思う。フロアのゾーニングだが、自由に行き来はできるが、例えば、あのフロアに行きたくなるというようなワクワク感のある変化があれば良いと思う。校舎や昇降口のどこかに、閉校となる小学校の名称を方角的に示すなど、旧小学校の名称を入れると良いのではないだろうか。グラウンドとは別に遊具のあるサブグラウンドを作り、中学生が部活動時に、小学生がサブグラウンドを使えるようにしたらどうか。1年生から9年生までが同じ校舎にるのであれば、最小学年と最高学年が、必ず毎日出会える、交わる場所があれば良いと思う。資料ではインクルーシブ教育のことが述べられているが、障がいのある子どもの教室は、今までは目に付かない場所にあることが多いと思うが、もっと皆と触れ合えるような場所が良いのではないか。また、ジェンダーに配置したトイレの設置も必要である。

今年10月に白石市の学校を視察したが、今、不登校がとて増えている。できるかわからないが、不登校の児童生徒でも登校しやすい別の昇降口や教室が設置できれば、不登校の子どもが通いやすい校舎になるのではないだろうか。新しい学校の名称は、子ども達に考えてもらうのが良い。

(教育部長) 次に、中村委員から願います。

(中村委員) 資料のように一つひとつ丁寧に進めていくことが重要であり、学校整備に近道はないと感じる。一日でも早く新校の開校日を迎えるために、課題や要望、不安等を迅速に検討し、対応していくのみと考える。

学校の老朽化は日々進行し待ってはくれない。住民も不安に感じている。現在、藤島中学校体育館は避難所となっており、大事な役割を担う場所なので、その点からも急がなければならない。藤島中学校、藤島小学校、東栄小学校、渡前小学校は洪水の指定避難所であるが、小中学校施設一体型の小中一貫校も、その役割を担う可能性がある。資料に少子化で令和10年度は児童生徒数が約500人となっているが、さらに減少することが予想される。大は小を兼ねるという言葉があるが、ゆとりのある校舎と使い道を想定して組み立てていく中で、避難所の役割も出てくると思う。延床面積は現在の藤島中学校の2倍程度となっているので、被災した住民を受け入れ、食事の提供や生活関連物資の配付など、様々な活動ができるスペースや備蓄の確保、ライフラインや情報通信等の機能を保持できるような対策も講じておくことが重要である。予算の制限はあると思うが、子ども達が安全に学校教育を受けることができ、地域住民が安心できるレベルの環境を整えてほしい。

(教育部長) 次に、齋藤委員から願います。

(齋藤委員) 今年7月の総合教育会議において、小中一貫を進めることで、子ども達がよりたくさん大人や仲間と関わる環境を作りたいと述べた。

私の住んでいる地域では、数年前に小学校の統廃合を経験している。身近にある小規模校から一緒になってきた数人の子ども達に話を聞いたところ、そろって「通い慣れた学校を離れて寂しかった」「環境の変化になじめず、いつもストレスがあった」「アウェイ感がいつもあった」「大人数になるにしても先輩達と同じように中学生になってからでよいのに、なぜ私達からなのかと思っていた」と、マイナスの発言が多く聞かれた。また別に、仕事の関係で藤島地域の対象区域に通学する児童に聞いたところ、「友達の中には、大きな学校に行きたいという子もいるが、私はいや。今のまま少ない人数の学校がいい」と話してくれた。私も経験者なので、子ども達の意見に共感する。少人数の学校生活に居心地の良さを感じている子ども達は多く、大人数で切磋琢磨するような大規模を望まない子ども達がたくさんいるのではないだろうか。

それで感じたことだが、小中一貫教育のメリットについて、保護者や地域住民など大人に向けての情報発信はしているが、肝心要の子ども達に、そのようなメリットなど十分な説明が足りているだろうか。子ども達は自分が卒業した後で関係がないかもしれないが、大人数で勉強したり遊んだりすることのメリットを十分に教える時間が必要と考える。小規模校の子ども達のみだけでなく、藤島地域全体でそのような思いを共有させる体制を作ってもらいたい。藤島地域教育振興会議で話題になったが、統廃合という視点ではなく、保護者も地域の方々、そして一番肝心の児童生徒の皆が、この形になって良かったと思えるような学校を作ってもらいたい。

(教育部長) 次に、市長から願います。

(市長) 今回、学校整備の手続きと小中一貫校のイメージ案が示され、教育委員会の皆様から意見が出されたが、さらに開かれた議論をしていただきたい。プライバシーに配慮するなどの必要はあるが、議論過程の透明性を確保しながら、様々な方から意見をいただき、特に子ども達からも意見をいただくことも含めて、手続きを踏む際には、時間的な制約もあると思うのでできるだけ努力してもらいたい。

イメージ案についてインパクトが足りない、表現の工夫などが指摘されたが、学校整備はハード整備と内容面の整備と一体で良い学校になると思うので、それぞれの取組み例と成果の関係について、もっと学校現場の先生なども交えて研究、検討し、良い学校にしていくという中身を作ってもらいたい。ICTなどのスキル面とともに藤島地域は獅子踊りなど伝統が脈々と継承されている地域なので、目指す子ども像も含めて、もう少し具体化が待たれる。

市長部局も関わるが、学校整備とともに老朽化している児童館、部活動の地域移行や武道館もある。また、藤島は獅子踊り以外にも有機農業や食育に先進的に取り組んできた地域なので、給食も含めた食、農のさらなる具体化が待たれると感じる。委員から不登校への対応や小規模校の良さ、不安という話もあったが、子ども達が小中一貫校へスムーズに移行できるよう、様々な配慮としてどのようなことがあり得るのか、早い段階から交流をするなどの取組みもあると思うので、そのようなことも検討が必要な事項ではないだろうか。

開かれた議論をしていけば、様々な課題も皆で知恵を出して、地域の方からも協力をいただきながら、ご理解を得ていかなければならないことであり、その点をお願いしたい。新年度も、調査や建物の設計の姿など専門的な領域があり、職員だけで進めるのも難しい部分もあるかと思うので進め方も工夫して、良い提案をし、成案を得られるように取り組んでいただきたい。

(教育部長) ただ今、市長、教育委員会から一通り発言いただいたが、関連して何か他にご発言はあるか。なければ、今回、教育委員会事務局として素案を示したが、具体的なお指摘を踏まえ案を修正し、あらためて皆様にお示し議論を深めるなかで、より良い学校になるよう努めていきたい。それでは、2点目の新図書館の整備に向けて事務局が説明申し上げる。

(図書館長) 資料No.2 説明

(教育部長) 冒頭、市長が挨拶されたとおり、図書館整備への関心が高まっている。教育委員会事務局として、今後の構想検討段階ではあるが重要な課題であることから、総合教育会議で議論いただく「たたき台」として示させていただいた。それでは教育長から願います。

(教育長) 図書館づくりをゼロからの構想で考えた場合、これからの図書館では、小さな子ども達が楽しく学べ、また、家族にとってテーマパーク型の施設にしていくことが必要と考える。例えば、土日にテーマパークに遊びに行き満喫することと同じ感覚で、図書館に家族で遊

びに行き満喫するというイメージを持っている。また、図書館機能だけでなく市民の集いの場、学びの場、また、中学生、高校生、大学生の学習の場としての複合施設の機能を充実させていくことが求められていくと考える。

参考に、説明にあった5つの視点に沿った他県の図書館を紹介させてもらう。10月に宮城県大崎市立図書館の「来楽里ホール」を視察してきた。大崎市の人口は12万4千人と本市とほぼ同規模であり、かねてから視察を希望していたものである。大崎市立図書館は市役所に近い場所に立地していた。入口から入って左側が図書館、右側が研修室、学習室、ホールで、市民の交流と賑わいづくりを目的に設計され、広いエントランスの前にはエレベーターと階段があり、2階へ車いすの方でもスムーズに行けるようになっていた。園児や児童生徒がすぐに本を手にとれるよう書架が低く設計され、館内を広く見渡すことができ、車いすの方も十分に移動できる空間が広がっていた。誰にでも優しい設計になっていると感じた。ソフト面では、2週間で読める範囲であれば貸出冊数の制限は設けないという事で、読めるなら何冊でも貸し出すというスタイルに感銘を受けた。また、一人ひとりの閲覧場所や学習スペースが多く確保され、大学生や市民が利用していた。DVD、CD、パソコンなどデジタルコンテンツやデジタル機器が揃い、活用の幅が広がっていた。入口には文字用の拡大読書器があり、目に障がいがある方が文字を拡大して読むことができる環境で、障がい者に優しい配慮がなされていた。バックヤードも充実し、多くの蔵書が整然と保管され、ゆとりのある設計で読書だけでなく研修室や学習室も整備されており、学びの殿堂として多くの方が利用できる施設となっていた。ソファや閲覧机などは天童市の企業とタイアップし揃え、目を引く雰囲気であった。外部と遮断されているが屋根付きのバルコニーがあり、屋外で温もりのある机と椅子でゆっくりと読書できるスペースがあり、お洒落な雰囲気だった。「しあわせCafé」という喫茶室があり、障がい者団体が運営し大変にぎわっていた。本市にもあるが参考になる取組みである。

どのような図書館にするかを全て叶えることは難しいが、今後、様々な図書館を見学し参考にすることが大事である。それぞれの良いところを取り入れることが大事であり、自分達の夢を語り鶴岡らしい知の館となるような、楽しい図書館を作っていければと思う。大崎市の図書館の課題は駐車場であり、現在、駐車場の整備を行っている途中とのことだったが、課題をクリアし人が来てもらうために駐車場をどうするか、建設地を決める際の課題になるのではないだろうか。

(教育部長) 次に、百瀬委員から願います。

(百瀬委員) 築38年となり施設の老朽化が進むとともに、施設の狭隘化や図書システムの導入の遅れなどの課題がある中での新図書館の整備に向けて、来年度から2か年にわたり委員会を立ち上げ、基本構想に着手するとのことだが、社会構造の変化や鶴岡らしさ、地域住民のニーズに応えられる新図書館構想を描こうとしていることが資料でよく分かると感じた。

これから新図書館を整備していくためには、長期的な視点に立った検討が必要であり、現在の図書館を取り巻く社会の動向を把握しておくことが求められる。例えば、社会のデジタ

ル化とその進展による情報、行動の変化、また、少子高齢化や人生 100 年時代の到来による生涯に渡って学べる環境づくり、新型コロナウイルス感染症拡大への社会的対応、価値創造型社会の進展、SDGs の推進などの社会的動向を踏まえて検討を進めていく必要がある。これらの社会的動向に加えて、資料に記載の現状と課題、また市民が寄せる期待などを含めて、新図書館の 5 つの視点を持ちながら、新図書館のミッション、目指す新図書館像、行動指針などを検討していくことになる。そのような検討を今後進めていく中で、私なりに必要と考える視点を申し上げる。

1 つ目は、図書館の機能に複合的な機能を有する施設として検討を進める中で、自己完結型サービスではなく共同補完型サービスを提供できるような体制づくりという視点を併せ持つ必要がある。図書館単独で求められる役割や期待に応じるという発想から、複数の施設が共同補完しながら多様なニーズに応じていくという発想も併せて複合的な機能を持つ視点があるのではないかと。

2 つ目は、デジタルが生活基盤となった社会において、新図書館が中核となって地域デジタルネットワークを形成してもらいたい。そうすることで、市民一人ひとりが必要とする知識、情報について、デジタル技術を徹底活用して提供していけるようになってもらいたい。

3 つ目は、市民主体の多彩な社会づくりを推進していけるよう、市民同士の対話と協働を促進し、地域や社会に還元されていく新たな価値を創造する知的活動を支援していく役割を新図書館に担ってもらいたい。

4 つ目は、施設整備にあたり本市で検討を進めている中心市街地の将来ビジョンの「ありたいまちの将来像」案にあるように、にぎわい創出に寄与していける新図書館になってもらいたい。酒田市の酒田駅前交流拠点施設「ミライニ」には図書館があり、来館者数が増えているとお聞きしている。そのような先進事例も参考にしながら、本市の新図書館を検討してもらいたい。今後の整備検討を踏まえ図書館全体で連携し、情報を共有、保存し、市民の生活をより豊かにしていくとともに、時代に応えられる新図書館が整備されることを期待する。

(教育部長) 次に、清野委員から願います。

(清野委員) たたき台を拝見したが、新しい図書館が支えていくものとして 5 つの視点はありますが、今後検討していくことになると思うが、コンセプトをはっきりとさせるべきではないだろうか。資料で示されている 5 つの視点がコンセプトなのか、藩校致道館の理念がコンセプトなのか、今後、どのようなコンセプトで取り組むのかを示す必要があり、今回の資料ではコンセプトが分かりにくいと感じた。

ハードとソフトを考える必要があり、ハードの面では複合的施設という話があったが大事なことだと思う。今まで未利用者、未来館者をどのように図書館に足を運んでもらうのかを考えると、最初は図書館に用事はないかもしれないが、図書館があることで、本や雑誌を手にとってみようとする人がいるかもしれないので複合的施設はとても良いと思う。今の図書館は駐車場が手狭と思う。高齢者や子ども連れ、障がい者にとっては駐車場がないとアクセスしにくいので、駐車場が豊富にあることが重要と考える。コロナ禍を経たが、またどの

ようなパンデミックが発生するかもしれないので、ある程度、人と人が離れて座れるスペースが必要ではないだろうか。施設では、従来の図書館は静かにするところというイメージがあるが、小さい子ども連れの場合、周囲に気を配って、図書館で本を借りたいのに、静かにしないと行けなく行きづらいこともあるかと思う。静かにすることは子どもにとって学習ではあるが、音を出してもよいエリア、静かにするエリアとゾーニングをしていくことが重要ではないか。そのことによって、読書しなくても来館しやすい、リラックスできる場所になると考える。複合施設として、できるか分からないが中央公民館のプラネタリウムが老朽化しているので、それを移設できないか。それができれば、図書館に行ったことがない人でもプラネタリウムを見ることで図書館に行くことも考えられる。今のプラネタリウムでは関連本の紹介ができないが、図書館と併設することで、例えば、北斗七星であれば星座の本など関連本の紹介ができるようになるので、プラネタリウムが併設できれば良いと考えた。展示スペースや学習スペースの充実は大事であるが、カフェの併設ができれば良いと思う。昼の時間になると、いったん退館しないと行けなくなるが、一日中継続して使える施設であれば良い。また、講演会や研修会ができる施設があると良い。理由は同じで、誰か先生を呼んで講演をしたときに、規模的には大きいものにはならないが、その先生の話や研修会資料の関連本を示すことができる。

ソフト面では、ユネスコ公共図書館宣言の中で公共図書館の役割として、全ての人が書籍をはじめとする情報を自由に利用できるようにすることが述べられている。それが大前提であることを忘れずに、そのうえで、先ほどから説明している場としての図書館であったり、課題解決支援が求められているようである。それにあたっては、司書資格を有する人のみならず、職員のスキルアップが必要で重要と考えるので、研修の機会等を増やしてほしい。課題解決であれば、各部署との連携がさらに求められると考えるので、今後とも市役所内の各部署との連携が必要である。5つの視点の②に市民の居場所とあるが、先進館におけるハード面の工夫の話があったが、例えば、住民票申請などのサービスもそこで受けることができれば、その用事で来た人が本を手取ることも考えられる。複合施設であれば、小児検診が図書館でできれば良いと思う。福祉分野でブックスタート事業に取り組んでいるが、図書館職員は絵本について詳しく手に取って話しができるので、ブックスタート事業のときに関連本を紹介するサービスがあれば良いのではないかと考える。本市に適応指導教室「おあしす」があるが、施設の一部を図書館に移せないだろうか。理由は、本が好きな子どもは一定数いるので、強制ではなく本の貸出の手伝いをしたり本の整理の手伝いをしたりすることで達成感の積み重ねが自己肯定感につながり、学校に行こうとする気持ちになると思う。一昨年、読書感想画の表彰式に教育長の代わりに出席したが、会場がアートフォーラムだった。図書に関する表彰式は図書館で行えるよう場所があれば良いと感じた。本市図書館に「おはなしポケット」のボランティアの方がいるが、話を聞くとボランティア活動で使用する大切な道具の置き場所がないとのことだったので、ボランティアの方々が活動しやすくしてもらいたい。

今後の議論になるが、運営は直営が望ましいと考える。以前、「蔦屋図書館」として佐賀県武雄市が話題となりその事例も研究してほしいが、やはり直営が望ましい。理由は、11月23日に岐阜県可児市にオープンした市立図書館分館に無印良品が入っているが、無印良品は図

書館のコンセプトやデザインを担当し、運営は市が行っている。スタッフに4人の司書が常駐しているので直営が良いと感じた。

(教育部長) 次に、中村委員から願います。

(中村委員) 新図書館の整備に向けてのたたき台を拝見し、自分の中でまだビジョンが固まらないが申し上げる。私のなかで図書館は勉強をしに行く所だったが、実際には友達と一緒に行って、一緒に時間を過ごす楽しめる場所であった。資料の5つの視点②に「自由に過ごせる滞在空間」に共感する。今後、どのように利用し使っていきたいかをうまく拾っていきたいと思う。

私が育った町では、当時、市街地から少し離れた公園に図書館があり、そこへ自転車に乗って通ったが、今どうなっているかを調べたところ、駅の近くに新設され、軽食のメニューがある図書カフェがあり、三大祭りの1つの菊祭りの資料のコーナーがあり、菊人形を展示できるようなスペースがある立派な図書館になっていた。もともと駅前の多目的ホールで菊祭りを開催していたと思うが、まちの賑わいづくりのコンテンツに図書館も関わっていると感じた。これからの図書館は本を借りるだけでないことに共感する。様々な活用を基本とした図書館を検討していくために、市民の声をより多く集めていかなければならない。子育て世代や学生、社会人、高齢者と幅は広く、それぞれが求めるものも違うし欲張り過ぎるのも良くないと思うが、できるだけニーズに応じて利用者が魅力を感じるような図書館を考えていきたい。今年、図書館は猛暑避難所として一時的な滞在もできたので、そのような時にも柔軟に対応できる場所、空間であってほしい。デジタル技術の活用として、ユニクロで使われているようなICタグを図書館で利用することについて普及がまだとの話を聞いた。電子図書館もそうだが、今後必要なこととして検討し、準備段階でどうしていくかの話合いが必要と思う。

より良い図書館を作るために、一步一步、丁寧に進めていく方向ではないか。私の子どもは、図書館に今までのような1つの机に4人が座るのではなく、セパレートされた自分の空間としての個室があった方が良くと話していた。

(教育部長) 次に、齋藤委員から願います。

(齋藤委員) 資料の新たな図書館像の中で、新しい場所としての鶴岡市の図書館のところに、今までにはない別の機能を備えた新図書館ができるのかとワクワクした。学校では読書の環境を作るような教育が昔からなされてきていると思うが、今、スマートフォンやタブレットなどで調べ物をするのは当たり前であり、読書も同じように、それらでできるような時代になった。市内に多数あった本屋も少なくなり、若者の読書離れということが昔から言われてきたが、最近、さらに進んだような印象を受ける。

そのような中、新しい図書館を整備するにあたり、本が苦手な人でも図書館に行ってみようと思えるような施設ができたら良いと思う。また、子育て世代が安心して気軽に足を運べ

るような場所になることを望む。全国的にも新しい図書館のあり方について様々話題になっているが、それを調べた中で気になったことを数点申し上げる。「子どもゾーンと大人ゾーンが貸出カウンターを境に分けられている」「読み聞かせタイムや子どもサイズの可愛いテーブルやイスがある」「子どもトイレや赤ちゃんの休憩室がある」「カフェやレストランが併設している」、以上が良いと思ったことである。

また、鶴岡でよく目にする光景だが、荘銀タクトのフリースペースが、下校後や休日は中高生の学習するスペースとして、いつも席が埋まっている状態である。このような学生などの学習スペースを増やすことが必要と感じている。図書館としての機能の充実はもちろんだが、子育て世代を含めてどの世代も利用しやすい、集うことができる、新しいお出掛けスポットとなるような新しい図書館ができたらと思う。

(教育部長) 次に、市長からお願いする。

(市長) 教育長からテーマパーク型という話があった。私は、図書館は難しいような、いかめしいような感じがするが、各委員の話をお聞きし、今、求められているものが変わってきていると感じた。大変期待していてワクワク感や読書、図書を超えた新たなまちの魅力になると改めて感じた。皆さんの思いが溢れていると感じた。

これを行政として、どのように受け止めていくかだが、市民が中心の図書館にどのようにしたらできるのかを真剣に考えていく必要がある。今までは行政が本を貸すという行為が中心だったが、図書館で過ごす魅力がいろいろとあると感じた。先日、広報つるおか1月号の新春座談会で、小学生の皆さんと座談したが、その一人が、新しい図書館を整備して一日過ごしたいということをお話されていた。鶴岡は冬になると厳しいエリアなので、そのようなことを考えても、新しい居場所になるのではと思った。来年度、検討委員会を立ち上げるが、長期的な視点からの時代のニーズは、資料の素案の中では表現しきれていないところがあり、コンセプトなども整理していかなければならないが、多くの方が期待をする施設なので、市民参画のもと何度か案を提案し、最初から最終案を示してまとめるという方法ではなく、何度か案を示しながら進めていくものと思う。

いろいろな部署が関わるのが想定され、また、読書のみならずいろいろな施設との関係もあるので、体制をしっかりと組むことをお願いしたい。

(教育部長) 出席の皆様から発言いただいたが、他にご発言はあるか。

(教育長) 先ほどの大崎市に行ったときに、本市のやまびこ号、移動図書館のシステムが良いと評価を受けた。地域が広くなればなるほど、デリバリー方式ではないが、本を届けることは大変良いとのことだった。この点もさらに継続していきたいと思う。駐車場の課題を話したが、もう1点課題があり、分館との連携が難しいということをお話されていた。ネットワークづくりをどうしていけばよいのか、大崎市も今後検討することのことだった。本市は面積が広いので、やまびこ号の活用と分館との連携を、今後、しっかりと考えていかなければなら

い。

(教育部長) 他にご発言はあるか。

(清野委員) 資料に市民と関係者とのワークショップとの記載があるが、ワークショップの人選が大事と考える。図書館によく行く人は参加すると思うが、その人達の意見だけでなく、図書館に行ったことがない人の意見を集めるため、どのように人選していくのか。その方達の意見を聞かないと、行ったことがない人が行きたい図書館はできないので、ワークショップをする時の人選は難しいが重要と考える。

(市長) 今の件で、例えば、無作為抽出して集めた市民から意見を聞くという手法が、新たな手法として注目されている。

(清野委員) 酒田市で総合計画を作るときに、無作為で人選し、ワークショップをしたということ聞いたことがある。

(市長) 人選をどのようにするか、専門の方に聞くということもあるが、バランスよく今まで参加したことがない人の意見を反映するかは、以前から課題であり、しっかりと実行されていないので、企画部と相談しながら検討してほしい。

(教育部長) 本日の総合教育会議を受けて、事務局としてさらに進めていくなかで、来年度以降、検討委員会を立上げるが、節目節目で考え方を示しながら、市民や関係者などから意見をお聞きし、全庁的な体制で進めるのでよろしくお願ひしたい。予定していた協議題は以上であるが、他にご発言はあるか。ないので、これで第2回鶴岡市総合教育会議を終了する。ご出席の皆様へ感謝申し上げます。